うちの近所コレイチ

わが町 自慢紹介 44

日本最古のダム式ため池 地域の〝憩いの場〟としても

「古事記」や「日本書紀」にもその名が記される

狭山池は日本最古のダム式ため池とされ、約1400年前の飛鳥時代前期に朝廷によって西除川（天野川）と三津屋川（今熊川）の合流点付近をせき止め築造されたとされています。正確な築造年は不明ですが「古事記」や「日本書紀」にもその名が記されています。

1704年（宝永元年）の大和川の付け替えまで、各時代で幾度となく改修が重ねられ、1988年（昭和63年）から10年以上の工期をかけた大改修のダム化工事によって、洪水調整機能を備えるとともに、池の周囲は公園として整備されました。

池の中にある「狭山池神社」一礼拝している年配男性に出会った

2本ある放流ゲートのうちの1本からは勢いよく水が流れていた。その音は驚くほど大きく響いていた

池の周囲は公園に地域の人々に親しまれて

1941年（昭和16年）に大阪府の史跡名勝第1号に指定され、「狭山池らしさの継承と創出」をテーマとした環境・景観の保全・整備が実施されてきました。

2001年（平成13年）には安藤忠雄さんの設計による大阪府立狭山池博物館が池の北側に開館し、改修工事の際に切り出された堤体の実物等を展示しています。池の周囲はウォーキングやランニングを楽しむ多くの市民のすがたがあり、地域の憩いの場所となっています。

Culture Navi かるちゃーなび

「人としての誇り」を守る闘いなのです

「処分」に物言えない空気が

あの日「思想調査アンケート」はさらりと配布されました。「提出期限がすぐなので早く出してください」と、他の書類の時と同様に事務所に回収袋が置かれました。内容に驚き、同僚たちに「これ、おかしくない？」と話すと「おかしい」「ひどいよね」と共感はあったものの「業務命令だから『出さない』という選択肢はない」というムードで、私以外の人は全員提出しました。おかしいと思いながら「処分」という文字に黙らされる…そのことが恐ろしいと感じました。

「出さない」を選んだ仲間がいる

出してしまおうかとも思いましたが、どうしてもできず、組合で話を聞いて「一人じゃない！」と確信し「私は出しません」と表明することができました。

原告としては、皆さんの後ろについていくだけの私ですが、たくさんの人が自分のことのように怒り、温かく励ましてくださることに胸が熱くなります。そしてこんな私でも「人としての誇り」を守る闘いの一員になっているんだ…と感じています。

「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

今月の記念日

「胃腸の日」12月11日

「いに（12）いい（11）」（胃に良い）の語呂合せから、日本大衆薬工業協会（現日本OTC医薬品協会）が2002年に12月11日を胃腸の日と制定しました。OTC医薬品とは、薬局・ドラッグストアなどで販売されている一般用医薬品のことで、1971年（昭和46年）、ロンドンで開催された世界大衆薬協会（WFPMM、現WSMI）の第1回大会に参加したOTC医薬品の有力メーカーによって日本大衆薬懇談会が創設されました。これからの忘年会や新年会などで、薬に頼らないように、暴飲暴食をつつしんでいきましょう。

このシネマがえいが

©2015「母と暮せば」製作委員会

母と暮せば haha to kurasebaa

〝町子は僕たちの代わりにうんと幸せにならんばいかん〟

戦後70年。作家・井上ひさしの広島が舞台の戯曲「父と暮せば」と対になる作品として構想された長崎を舞台に描いた物語を、山田洋二監督が映画化しました。山田監督としては初めてのファンタジー作品です。

映画はモノクロで、長崎に原爆が投下されるところから始まります。それから3年後、医学生だった福原浩二（二宮和也）の墓参りに母・伸子（吉永小百合）と浩二の恋人だった佐野町子（黒木華）が訪れ、「あの子は一瞬の間に消えてしまったの。もうあきらめるわ」と死を受け入れたことで、亡霊となった浩二がたびたび姿を現わすようになります。二人は、楽しかった思い出話から他愛もないことまでたくさん話し、奇妙だったけれど、喜びに満ちあれ、その幸せは永遠に続くようにみえましたが…。

映画の中で、たまたま撮った写真に軍事施設が写っていたことを理由に浩二がスパイ容疑で捕まるシーンや「地震や津波は防ぎようがないから運命だけど、これは防げたことなの。人間が行った大変な悲劇なの」などのセリフなど、戦争や原爆投下への怒りがちりばめられています。

12月12日から全国ロードショー。映画の鑑賞券は事業本部を通じて各単組でも購入することができます。

心に響くこのひとこと

取り掛かることに成功の80％はかかってる

ウディ・アレン

アメリカ合衆国を代表する映画監督のウディ・アレンは、幼年期に母親から時々激しい叱責を受け、「大事にされている、愛されている」という感情が持てなくなりました。そして、ひねくれた少年となり現実逃避の末、コミックや映画、ジャズに傾倒しました。後に、アカデミー賞に24回ノミネートされ（史上最多）、監督賞を1度、脚本賞を3度受賞しました。また、俳優、脚本家、小説家、クラリネット奏者など様々な顔をもっています。